

Ⅲ 調査結果の概要（生活実態等）

1 身体障害者手帳及び療育手帳の所持の状況

- (1) 全国の18歳未満の在宅の身体障害児81,900人のうち、身体障害者手帳を所持している児童は、78,300人で全体の95.6%となっており、前回調査と比較すると約10%増加している。
また、療育手帳を所持している児童は、22,700人で全体の27.7%となっている
- (2) 障害の種類別に身体障害者手帳の所持率をみると、聴覚・言語障害が98.0%と最も高く、次いで視覚障害が95.8%、肢体不自由が95.6%、内部障害が93.7%となっている。
- (3) 療育手帳の所持率をみると、肢体不自由が39.0%、内部障害が16.9%などとなっている。

表Ⅲ-1 障害の種類別にみた身体障害者手帳及び療育手帳の所持状況

(単位:人)

障害の種類	平成13年6月					平成8年11月				
	総数	身体障害者 手帳あり	療育手帳 あり	手帳なし	回答なし	総数	身体障害者 手帳あり	療育手帳 あり	手帳なし	回答なし
総数	81,900 (100.0)	78,300 (95.6)	22,700 (27.7)	2,700 (3.3)	-	81,600 (100.0)	69,900 (85.7)	22,600 (27.7)	8,300 (10.2)	500 (0.6)
視覚障害	4,800 (100.0)	4,600 (95.8)	500 (10.4)	200 (4.2)	-	5,600 (100.0)	4,100 (73.2)	1,000 (17.9)	1,400 (25.0)	-
聴覚・ 言語障害	15,200 (100.0)	14,900 (98.0)	1,200 (7.9)	-	-	16,400 (100.0)	13,200 (80.5)	2,200 (13.4)	2,400 (14.6)	-
肢体不自由	47,700 (100.0)	45,600 (95.6)	18,600 (39.0)	1,700 (3.6)	-	41,400 (100.0)	37,700 (91.1)	15,200 (36.7)	1,900 (4.6)	300 (0.7)
内部障害	14,200 (100.0)	13,300 (93.7)	2,400 (16.9)	700 (4.9)	-	18,200 (100.0)	15,000 (82.4)	4,200 (23.1)	2,700 (14.8)	200 (1.1)

2 日常生活動作の状況

- (1) 日常の生活動作として、「食事」「排泄」「入浴」「衣服の着脱」「寝返り」「家の中の移動」「外出」の7つの動作の状況についてみると、
- ア 日常生活動作を「一人でできる（時間をかければできるを含む）」者をみると、「寝返りをする」が82.1%と最も高く、「外出をする」が41.5%と最も低い割合となっている。
- イ 一方、「一部介助を要する」者についてみると、「入浴をする」が16.5%最も高く、「寝返りをする」が2.9%と最も低くなっている。
- ウ さらに、「全部介助を要する」者をみると、「外出をする」が40.7%、「入浴をする」が33.8%、「排泄をする」が32.4%、「衣服の着脱をする」が31.1%などとなっており、前回調査に引き続き「外出をする」が最も高い割合を示している。

表Ⅲ－２ 日常生活動作の介助状況

(単位:人)

日常生活動作の種類	総数	一人でできる	時間をかければできる	一部介助が必要	全部介助が必要	回答なし
食事をする	81,900 (100.0)	47,500 (58.0)	5,500 (6.7)	8,900 (10.9)	18,600 (22.7)	1,400 (1.7)
		(64.7)		(33.6)		
排泄をする	81,900 (100.0)	38,100 (46.5)	3,100 (3.8)	12,100 (14.8)	26,500 (32.4)	2,200 (2.7)
		(50.3)		(47.1)		
入浴をする	81,900 (100.0)	34,200 (41.8)	4,300 (5.3)	13,500 (16.5)	27,700 (33.8)	2,200 (2.7)
		(47.0)		(50.3)		
衣服の着脱をする	81,900 (100.0)	36,600 (44.7)	6,500 (7.9)	11,100 (13.6)	25,500 (31.1)	2,200 (2.7)
		(52.6)		(44.7)		
寝返りをする	81,900 (100.0)	64,100 (78.3)	3,100 (3.8)	2,400 (2.9)	9,900 (12.1)	2,400 (2.9)
		(82.1)		(15.0)		
家の中を移動する	81,900 (100.0)	55,000 (67.2)	4,600 (5.6)	4,300 (5.3)	16,100 (19.7)	1,900 (2.3)
		(72.8)		(24.9)		
外出をする	81,900 (100.0)	31,800 (38.8)	2,200 (2.7)	12,800 (15.6)	33,300 (40.7)	1,900 (2.3)
		(41.5)		(56.3)		

()内は構成比(%)

(2) 日常生活動作の介助を必要とする者についての主な介助者は、いずれの動作においても「親」が80%以上を占めている。

表Ⅲ－３ 日常生活動作別にみた主な介助者の状況

(単位:人)

日常生活動作の種類	総数	親	祖父母	兄弟姉妹	その他	いない	回答なし
食事をする	27,500 (100.0)	25,600 (93.1)	500 (1.8)	-	200 (0.7)	-	1,200 (4.4)
		(93.1)		(0.7)		(4.4)	
排泄をする	38,600 (100.0)	34,200 (88.6)	500 (1.3)	-	200 (0.5)	-	3,600 (9.3)
		(88.6)		(0.5)		(9.3)	
入浴をする	41,200 (100.0)	35,700 (86.7)	500 (1.2)	-	500 (1.2)	-	4,600 (11.2)
		(86.7)		(1.2)		(11.2)	
衣服の着脱をする	36,600 (100.0)	33,000 (90.2)	200 (0.5)	-	200 (0.5)	-	3,100 (8.5)
		(90.2)		(0.5)		(8.5)	
寝返りをする	12,300 (100.0)	10,100 (82.1)	200 (1.6)	200 (1.6)	-	-	1,700 (13.8)
		(82.1)		(1.6)		(13.8)	
家の中を移動する	20,400 (100.0)	17,300 (84.8)	200 (1.0)	200 (1.0)	200 (1.0)	-	2,400 (11.8)
		(84.8)		(1.0)		(11.8)	
外出をする	46,100 (100.0)	39,200 (85.0)	200 (0.4)	-	200 (0.4)	-	6,200 (13.4)
		(85.0)		(0.4)		(13.4)	

()内は構成比(%)

3 日中の活動場所の状況

- (1) 「未就学」「就学」「学校卒業後」で年齢階級別に日中の活動場所の状況についてみると
- ア 「未就学」の者は19,300人で全体の23.6%となっており、その中で「自宅」が最も多く7,700人で39.9%、次いで「幼稚園」が5,500人で28.5%、「保育所」が3,400人で17.6%、「通園施設」が2,900人で15.0%などとなっている。
- イ 「就学時」の者は、56,900人で全体の69.5%となっており、その中で「一般の学校の普通学級」の22,400人で39.4%と最も高く、次いで「盲・聾・養護学校」が21,900人で38.5%、「一般の学校の特殊学級」が10,400人で18.3%となっている。
- ウ 「学校卒業後」の者は2,200人で全体の2.7%となっており、活動場所としては「自宅」が1,200人で54.5%と最も多くなっている。

表Ⅲ-4 日中の活動の場所の状況（一部複数回答）

（単位：人）

総数	未就学	就学時	学校卒業後	回答なし
81,900 (100.0)	19,300 (23.6)	56,900 (69.5)	2,200 (2.7)	3,600 (4.4)

未就学 総数	通園施設	障害児 通園事業	保育所	幼稚園	自宅	その他
19,300 (100.0)	2,900 (15.0)	1,200 (6.2)	3,400 (17.6)	5,500 (28.5)	7,700 (39.9)	500 (2.6)

就学時 総数	盲・聾・ 養護学校	一般の学校 の普通学級	一般の学校 の特殊学級	自宅 (訪問教育)	その他
56,900 (100.0)	21,900 (38.5)	22,400 (39.4)	10,400 (18.3)	2,700 (4.7)	200 (0.4)

学校卒業後 総数	職場・会社	通所施設	職業能力 開発施設	自宅	その他
2,200 (100.0)	200 (9.1)	200 (9.1)	- -	1,200 (54.5)	500 (22.7)

()内は構成比(%)

4 児童相談所等の利用状況

- (1) 過去3年間に障害に関することで、相談、判定あるいは受診などで利用した機関の状況を見ると、一度でも利用したことのある者は72,100人で全体の88.0%となっている。
- (2) 機関別の利用状況についてみると、病院・診療所が61,900人で75.6%と最も多く、次いで児童相談所が22,400人で27.4%、福祉事務所が26.7%の順となっている。

表Ⅲ-5 児童相談所等の利用状況（複数回答）

(単位:人)

総数	利用したことがある				
	小計	児童相談所	身体障害者 更生相談所	保健所	福祉事務所
81,900 (100.0)	72,100 (88.0)	22,400 (27.4)	2,200 (2.7)	15,700 (19.2)	21,900 (26.7)

利用したことがある				利用した ことがない	回答なし
病院・ 診療所	教育機関	公共職業 安定所	その他		
61,900 (75.6)	14,500 (17.7)	-	6,000 (7.3)	8,000 (9.8)	1,900 (2.3)

()内は構成比(%)

5 児童福祉施設等の利用状況

- (1) 過去3年間に児童福祉施設等を入所又は相談・療育等により利用した状況を見ると、1回でも利用したことのある者は28,900人で全体の35.3%となっている。その内訳をみると通園施設が17.7%で最も多く、次いで入所施設が10.3%、保育所が3.8%、通所施設が2.9%の順となっている。

表Ⅲ-6 児童福祉施設等の利用状況

(単位:人)

総数	利用したことがある						利用した ことがない	回答なし
	小計	入所施設	通園施設	保育所	通所施設	その他		
81,900 (100.0)	28,900 (35.3)	8,400 (10.3)	14,500 (17.7)	3,100 (3.8)	2,400 (2.9)	500 (0.6)	48,200 (58.9)	4,600 (5.6)

()内は構成比(%)

- (2) また、その利用方法をみると、通所利用が55.7%で最も多く、次いで入所利用が15.9%、短期療育等が10.0%、ショートステイが9.3%、相談等が3.5%の順となっている。

表Ⅲ-7 児童福祉施設等の利用方法

(単位:人)

総数	入所利用	通所利用	相談等	ショート ステイ	短期 療育等	その他
28,900 (100.0)	4,600 (15.9)	16,100 (55.7)	1,000 (3.5)	2,700 (9.3)	2,900 (10.0)	1,900 (6.6)

()内は構成比(%)

6 在宅サービスの利用状況

(1) 過去の1年間の在宅サービスの利用状況をみると、「全て利用した」が0.2%で、「いずれかを利用した」が8.5%である。これを障害の種類別にみると、肢体不自由で利用率が高い。

表Ⅲ－8 障害の種類別にみた在宅サービスの利用状況

(単位：人)

障害の程度	総数	在宅サービスをいずれか利用した	在宅サービスをすべて利用した	在宅サービスを利用していない	回答なし
総数	81,900 (100.0)	7,000 (8.5)	200 (0.2)	52,500 (64.1)	22,200 (27.1)
視覚障害	4,800 (100.0)	200 (4.2)	-	2,900 (60.4)	1,700 (35.4)
聴覚・言語障害	15,200 (100.0)	700 (4.6)	-	8,200 (53.9)	6,300 (41.4)
肢体不自由	47,700 (100.0)	6,000 (12.6)	200 (0.4)	33,500 (70.2)	8,000 (16.8)
内部障害	14,200 (100.0)	-	-	8,000 (56.3)	6,300 (44.4)
重複障害 (再掲)	6,000 (100.0)	-	-	3,900 (65.0)	2,200 (36.7)

() 内は構成比 (%)

(2) 過去1年間の在宅サービスの利用状況をサービスの種類別についてみると、「ショートステイを利用した」が5.6%と最も高く、次いで、「デイサービスを利用した」が3.3%、「ホームヘルプサービスを利用した」が2.1%となっている。

表Ⅲ－9 障害の種類別にみた在宅サービスの利用の状況

(単位：人)

サービスの種類	総数	障害の種類別				(再掲) 重複障害
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害	
ショートステイ	81,900 (100.0)	4,800 (100.0)	15,200 (100.0)	47,700 (100.0)	14,200 (100.0)	6,000 (100.0)
利用した	4,600 (5.6)	-	500 (3.3)	4,100 (8.6)	-	-
利用してない	54,500 (66.5)	2,900 (60.4)	8,400 (55.3)	35,200 (73.8)	8,000 (56.3)	3,900 (65.0)
回答なし	22,900 (28.0)	1,900 (39.6)	6,300 (41.4)	8,400 (17.6)	6,300 (44.4)	2,200 (36.7)
ホームヘルプサービス	81,900 (100.0)	4,800 (100.0)	15,200 (100.0)	47,700 (100.0)	14,200 (100.0)	6,000 (100.0)
利用した	1,700 (2.1)	-	200 (1.3)	1,400 (2.9)	-	-
利用してない	47,700 (58.2)	2,700 (56.3)	7,700 (50.7)	31,100 (65.2)	6,300 (44.4)	2,900 (48.3)
回答なし	32,500 (39.7)	2,200 (45.8)	7,200 (47.4)	15,200 (31.9)	8,000 (56.3)	3,100 (51.7)
デイサービス	81,900 (100.0)	4,800 (100.0)	15,200 (100.0)	47,700 (100.0)	14,200 (100.0)	6,000 (100.0)
利用した	2,700 (3.3)	200 (4.2)	-	2,400 (5.0)	-	-
利用してない	47,000 (57.4)	2,700 (56.3)	8,000 (52.6)	30,100 (63.1)	6,300 (44.4)	2,900 (48.3)
回答なし	32,300 (39.4)	1,900 (39.6)	7,200 (47.4)	15,200 (31.9)	8,000 (56.3)	3,100 (51.7)

() 内は構成比 (%)

(3) ショートステイの利用状況についてみると、「制度は知っているが利用する必要がない」が43.2%と最も高い。障害の種類別にみると、いずれも「制度は知っているが利用する必要がない」の割合が高い。

表Ⅲ－１０ 障害の種類別にみたショートステイの利用の状況

(単位：人)

ショートステイの利用状況	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	81,900 (100.0)	4,800 (100.0)	15,200 (100.0)	47,700 (100.0)	14,200 (100.0)
利用したことがある	4,600 (5.6)	-	500 (3.3)	4,100 (8.6)	-
制度は知っているが利用する必要がない	35,400 (43.2)	2,400 (50.0)	6,700 (44.1)	22,400 (47.0)	3,900 (27.5)
利用を希望したが利用できなかった	1,000 (1.2)	-	-	1,000 (2.1)	-
制度を知らなかったので利用したことがない	5,300 (6.5)	-	500 (3.3)	3,600 (7.5)	1,200 (8.5)
その他	12,800 (15.6)	500 (10.4)	1,200 (7.9)	8,200 (17.2)	2,900 (20.4)
回答なし	22,900 (28.0)	1,900 (39.6)	6,300 (41.4)	8,400 (17.6)	6,300 (44.4)

() 内は構成比 (%)

(4) ショートステイを利用した過去の1年間の利用回数をみると、「1回」が41.3%と最も多く、次いで「2回」が21.7%となっている。

また、平均利用日数をみると、「1～2日」が63.0%と最も多く、次いで「5～7日」と「10日以上」がそれぞれ4.3%となっている。

表Ⅲ－１１ 障害の種類別にみた過去1年間のショートステイの利用回数の状況

(単位：人)

障害の種類	総数	利用した回数						回答なし
		1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	
総数	4,600 (100.0)	1,900 (41.3)	1,000 (21.7)	-	200 (4.3)	-	700 (15.2)	700 (15.2)
視覚障害	-	-	-	-	-	-	-	-
聴覚・言語障害	500 (100.0)	500 (100.0)	-	-	-	-	-	-
肢体不自由	4,100 (100.0)	1,400 (34.1)	1,000 (24.4)	-	200 (4.9)	-	700 (17.1)	700 (17.1)
内部障害	-	-	-	-	-	-	-	-

() 内は構成比 (%)

表Ⅲ－１２ 障害の種類別にみた過去１年間のショートステイの利用日数の状況

(単位：人)

障害の種類	総数	利用した日数					
		1～2日	3～4日	5～7日	8～9日	10日以上	回答なし
総数	4,600 (100.0)	2,900 (63.0)	-	200 (4.3)	-	200 (4.3)	1,200 (26.1)
視覚障害	-	-	-	-	-	-	-
聴覚・ 言語障害	500 (100.0)	200 (40.0)	-	-	-	200 (40.0)	-
肢体不自由	4,100 (100.0)	2,700 (65.9)	-	200 (4.9)	-	-	1,200 (29.3)
内部障害	-	-	-	-	-	-	-

()内は構成比(%)

- (5) ショートステイ利用希望者の改善意見についてみると、「利用手続きの簡素化、迅速化」が67.4%と最も高く、次いで、「施設職員の資質の向上」が41.3%、「利用費用の減額」が21.7%の順となっている。

表Ⅲ－１３ 障害の種類別にみた今後ショートステイの利用を希望する者の改善意見の状況(複数回答)

(単位：人)

改善意見	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	4,600 (100.0)	-	200 (100.0)	4,100 (100.0)	200 (100.0)
利用手続きの 簡素化、迅速化	3,100 (67.4)	-	200 (100.0)	2,700 (65.9)	200 (100.0)
利用費用の減額	1,000 (21.7)	-	-	700 (17.1)	200 (100.0)
サービスメニュー の多様化	200 (4.3)	-	-	200 (4.9)	-
利用日数の増	700 (15.2)	-	-	700 (17.1)	-
早朝・夜間の 入退所	700 (15.2)	-	-	700 (17.1)	-
施設職員の資質 の向上	1,900 (41.3)	-	-	1,900 (46.3)	-
その他	1,000 (21.7)	-	-	1,000 (24.4)	-
回答なし	-	-	-	-	-

()内は構成比(%)

(6) ホームヘルプサービスの利用状況についてみると「制度は知っているが利用する必要がない」の割合が35.0%と最も高い。障害の種類別にみると、いずれも「制度は知っているが利用する必要がない」の割合が高い。

表Ⅲ-14 障害の種類別にみたホームヘルプの利用状況

(単位：人)

ホームヘルプサービスの利用状況	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	81,900 (100.0)	4,800 (100.0)	15,200 (100.0)	47,700 (100.0)	14,200 (100.0)
利用したことがある	1,700 (2.1)	-	200 (1.3)	1,400 (2.9)	-
制度は知っているが利用する必要がない	28,700 (35.0)	1,900 (39.6)	6,500 (42.8)	17,600 (36.9)	2,700 (19.0)
利用を希望したが利用できなかった	1,400 (1.7)	-	-	1,400 (2.9)	-
制度を知らなかったので利用したことがない	6,700 (8.2)	200 (4.2)	200 (1.3)	5,500 (11.5)	700 (4.9)
その他	10,800 (13.2)	500 (10.4)	1,000 (6.6)	6,500 (13.6)	2,900 (20.4)
回答なし	32,500 (39.7)	2,200 (45.8)	7,200 (47.4)	15,200 (31.9)	8,000 (56.3)

()内は構成比(%)

(7) ホームヘルプサービスを利用した過去1年間の利用頻度をみると、「週3回以上」の割合が41.2%と最も多く、次いで、「週2回」が29.4%となっている。

また、ホームヘルプサービスの平均利用時間では「1時間以内」が41.2%と最も高い。

表Ⅲ-15 障害の種類別にみたホームヘルプの利用頻度の状況

(単位：人)

障害の種類	総数	利用頻度						
		月に1回	月に2~3回	週に1回	週に2回	週に3回以上	その他	回答なし
総数	1,700 (100.0)	-	-	200 (11.8)	500 (29.4)	700 (41.2)	-	200 (11.8)
視覚障害	-	-	-	-	-	-	-	-
聴覚・言語障害	200 (100.0)	-	-	200 (100.0)	-	-	-	-
肢体不自由	1400 (100.0)	-	-	-	500 (35.7)	700 (50.0)	-	200 (14.3)
内部障害	-	-	-	-	-	-	-	-

()内は構成比(%)

表Ⅲ－１６ 障害の種類別にみたホームヘルプサービスの1回の平均利用時間の状況

(単位：人)

障害の種類	総数	平均利用時間			
		1時間以内	1～2時間	3時間以上	回答なし
総数	1,700 (100.0)	700 (41.2)	500 (29.4)	200 (11.8)	200 (11.8)
視覚障害	-	-	-	-	-
聴覚・言語障害	200 (100.0)	-	200 (100.0)	-	-
肢体不自由	1,400 (100.0)	700 (50.0)	200 (14.3)	200 (14.3)	200 (14.3)
内部障害	-	-	-	-	-

()内は構成比(%)

- (8) ホームヘルプサービス利用希望者の改善意見をみると、「緊急時の派遣」が56.4%と高く、次いで、「利用手続きの簡素化、迅速化」が52.7%、「派遣回数・時間の増」が34.5%となっている。これを障害の種類別にみると、肢体不自由の「緊急時の派遣」及び「利用手続きの簡素化・迅速化」が60.4%と最も高い。

表Ⅲ－１７ 障害の種類別にみた今後ホームヘルプサービスの利用を希望する者の改善意見の状況(複数回答)

(単位：人)

改善意見	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	5,500 (100.0)	200 (100.0)	200 (100.0)	4,800 (100.0)	200 (100.0)
利用手続きの簡素化、迅速化	2,900 (52.7)	-	-	2,900 (60.4)	-
利用費用の減額	1,700 (30.9)	-	200 (100.0)	1,200 (25.0)	200 (100.0)
プライバシーの保護の徹底	700 (12.7)	-	-	500 (10.4)	200 (100.0)
派遣回数、時間の増	1,900 (34.5)	200 (100.0)	-	1,700 (35.4)	-
早朝・夜間・休日の派遣	700 (12.7)	-	-	700 (14.6)	-
指名制度の導入	1,200 (21.8)	200 (100.0)	-	1,000 (20.8)	-
ホームヘルパーの資質の向上	1,400 (25.5)	-	-	1,200 (25.0)	200 (100.0)
緊急時の派遣	3,100 (56.4)	200 (100.0)	-	2,900 (60.4)	-
その他	700 (12.7)	-	-	700 (14.6)	-
回答なし	-	-	-	-	-

()内は構成比(%)

(9) デイサービスの利用状況についてみると、「制度は知っているが利用する必要がない」が32.7%と最も高い。障害の種類別をみると、いずれも「制度は知っているが利用する必要がない」が最も割合が高い。

表Ⅲ-18 障害の種類別にみたデイサービスの利用状況

(単位：人)

デイサービスの利用状況	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	81,900 (100.0)	4,800 (100.0)	15,200 (100.0)	47,700 (100.0)	14,200 (100.0)
利用したことがある	2,700 (3.3)	200 (4.2)	-	2,400 (5.0)	-
制度は知っているが利用する必要がない	26,800 (32.7)	1,700 (35.4)	6,500 (42.8)	16,100 (33.8)	2,400 (16.9)
利用を希望したが利用できなかった	1,400 (1.7)	-	-	1,400 (2.9)	-
制度を知らなかったので利用したことがない	7,500 (9.2)	-	200 (1.3)	6,500 (13.6)	700 (4.9)
その他	11,300 (13.8)	1,000 (20.8)	1,200 (7.9)	6,000 (12.6)	3,100 (21.8)
回答なし	32,300 (39.4)	1,900 (39.6)	7,200 (47.4)	15,200 (31.9)	8,000 (56.3)

()内は構成比(%)

(10) デイサービスの利用頻度の状況を見ると、「1か月に2～3回」が25.9%と最も高く、次いで、「1か月に1回」が18.5%となっている。

表Ⅲ-19 障害の種類別にみたデイサービスの利用頻度の状況

(単位：人)

障害の種類	総数	利用頻度						回答なし
		1か月に1回	1か月に2～3回	1週間に1回	1週間に2回	1週間に3回以上	その他	
総数	2,700 (100.0)	500 (18.5)	700 (25.9)	200 (7.4)	200 (7.4)	200 (7.4)	500 (18.5)	200 (7.4)
視覚障害	200 (100.0)	-	200 (100.0)	-	-	-	-	-
聴覚・言語障害	-	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由	2,400 (100.0)	500 (20.8)	500 (20.8)	200 (8.3)	200 (8.3)	200 (8.3)	500 (20.8)	200 (8.3)
内部障害	-	-	-	-	-	-	-	-

()内は構成比(%)

- (11) デイサービス利用希望者の改善意見についてみると、「利用日数の増」が43.6%と最も高く、次いで「利用手続きの簡素化、迅速化」が34.5%、「利用時間の増」が30.9%の順になっている。

表Ⅲ－２０ 障害の種類別にみた今後デイサービスの利用を希望する者の改善意見の状況（複数回答）

(単位：人)

改善意見	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	5,500 (100.0)	200 (100.0)	-	5,300 (100.0)	-
利用手続きの簡素化、迅速化	1,900 (34.5)	-	-	1,900 (35.8)	-
利用費用の減額	1,200 (21.8)	-	-	1,200 (22.6)	-
プライバシーの保護の徹底	200 (3.6)	-	-	200 (3.8)	-
利用時間の増	1,700 (30.9)	-	-	1,700 (32.1)	-
利用日数の増	2,400 (43.6)	-	-	2,400 (45.3)	-
サービスメニューの多様化	200 (3.6)	-	-	200 (3.8)	-
施設職員の資質の向上	1,000 (18.2)	-	-	1,000 (18.9)	-
その他	1,200 (21.8)	200 (100.0)	-	1,000 (18.9)	-
回答なし	200 (3.6)	-	-	200 (3.8)	-

()内は構成比(%)

7 補装具・日常生活用具の所有状況

(1) 補装具の所有状況をみると、「車いす」が24,800人と最も多く、次いで「装具」が20,000人、「補聴器」が14,700人などとなっている。

表Ⅲ－２１ 補装具の所有状況（複数回答）

（単位：人）

補装具の種類	総数	福祉制度等 により交付	その他
所有者延べ総数	108,500 (100.0)	94,500 (87.1)	13,600 (12.5)
義肢	1,000 (100.0)	700 (70.0)	200 (20.0)
装具	20,000 (100.0)	17,400 (87.0)	2,700 (13.5)
座位保持装置	5,500 (100.0)	5,300 (96.4)	200 (3.6)
盲人安全つえ	1,400 (100.0)	700 (50.0)	700 (50.0)
義眼	1,000 (100.0)	700 (70.0)	200 (20.0)
眼鏡	4,800 (100.0)	1,200 (25.0)	3,600 (75.0)
点字器	1,200 (100.0)	1,200 (100.0)	-
補聴器	14,700 (100.0)	13,000 (88.4)	1,700 (11.6)
人工喉頭	-	-	-
車いす	24,800 (100.0)	23,100 (93.1)	1,700 (6.9)
電動車いす	1,000 (100.0)	700 (70.0)	200 (20.0)
座位保持いす	10,800 (100.0)	10,800 (100.0)	-
起立保持具	1,900 (100.0)	1,700 (89.5)	200 (10.5)
歩行器	5,500 (100.0)	5,300 (96.4)	200 (3.6)
頭部保護帽	5,500 (100.0)	5,100 (92.7)	500 (9.1)
頭部保持具	200 (100.0)	-	200 (100.0)
排便補助具	2,200 (100.0)	1,400 (63.6)	700 (31.8)
収尿器	1,000 (100.0)	700 (70.0)	200 (20.0)
ストマ用装具	1,900 (100.0)	1,900 (100.0)	-
歩行補助つえ	4,100 (100.0)	3,600 (87.8)	400 (9.8)

() 内は構成比 (%)

(3) 福祉制度で給付された日常生活用具の所有状況をみると、ファックス、入浴補助用具、文字放送デコーダーなどが多く給付されている。

表Ⅲ－２２ 障害の種類別にみた福祉制度で給付等された日常生活用具の所有の状況（複数回答）

(単位：人)

日常生活用具の種類	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	12,800	1,400	3,600	7,000	700
盲人用テープレコーダー	200	200	-	-	-
盲人用時計	-	-	-	-	-
盲人用タイムスイッチ	-	-	-	-	-
盲人用カナタイプライター	-	-	-	-	-
点字タイプライター	1,200	1,200	-	-	-
盲人用電卓	-	-	-	-	-
電磁調理器	-	-	-	-	-
盲人用体温計（音声式）	-	-	-	-	-
盲人用秤	-	-	-	-	-
点字図書	200	200	-	-	-
盲人用体重計	-	-	-	-	-
視覚障害者用拡大読書器	200	200	-	-	-
歩行時間延長信号機用小型送信機	-	-	-	-	-
点字ディスプレイ	-	-	-	-	-
聴覚障害者用屋内信号装置	-	-	-	-	-
聴覚障害者用通信装置	200	-	200	-	-
文字放送デコーダー	1,900	200	1,700	-	-
浴槽	700	-	-	700	-
湯沸器	200	-	-	200	-
便器	500	-	-	500	-
特殊便器	700	-	-	700	-
特殊マット	1,000	-	-	1,000	-
特殊寝台	1,200	-	-	1,200	-
電動タイプライター	-	-	-	-	-
ワードプロセッサ	1,000	-	-	1,000	-
電動歯ブラシ	-	-	-	-	-
特殊尿器	200	-	-	200	-
入浴担架	500	-	-	500	-
体位変換器	200	-	-	200	-
重度障害者用意志伝達装置	-	-	-	-	-
携帯用会話補助装置	500	-	-	200	200
入浴補助用具	1,900	-	-	1,900	-
移動用リフト	200	-	-	200	-
歩行支援用具	1,000	-	-	1,000	-
透析液加温器	200	-	-	-	200
酸素ポンプ運搬車	200	-	-	-	200
ネブライザー	1,200	-	-	1,200	-
火災警報器	-	-	-	-	-
自動消火器	-	-	-	-	-
緊急通報装置	-	-	-	-	-
電気式たん吸引器	1,000	-	-	1,000	-
福祉電話	-	-	-	-	-
ファックス	2,700	200	2,400	-	-
視覚障害者用ワードプロセッサ	-	-	-	-	-

(4) 自費で購入した日常生活用具の所有状況をみると、ファックス、ネブライザー、電気式たん吸引器、歩行支援用具などが多く購入されている。

表Ⅲ－２３ 障害の種類別にみた自費で購入した日常生活用具の
所有の状況（複数回答）

(単位：人)

日常生活用具の種類	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	14,000	1,400	3,400	7,500	1,700
盲人用テープレコーダー	-	-	-	-	-
盲人用時計	700	700	-	-	-
盲人用タイムスイッチ	-	-	-	-	-
盲人用カナタイプライター	-	-	-	-	-
点字タイプライター	200	200	-	-	-
盲人用電卓	-	-	-	-	-
電磁調理器	-	-	-	-	-
盲人用体温計（音声式）	-	-	-	-	-
盲人用秤	200	200	-	-	-
点字図書	200	200	-	-	-
盲人用体重計	-	-	-	-	-
視覚障害者用拡大読書器	200	200	-	-	-
歩行時間延長信号機用小型送信機	-	-	-	-	-
点字ディスプレイ	-	-	-	-	-
聴覚障害者用屋内信号装置	500	-	500	-	-
聴覚障害者用通信装置	1,000	-	1,000	-	-
文字放送デコーダー	1,200	-	1,200	-	-
浴槽	700	-	-	500	200
湯沸器	500	-	-	200	200
便器	1,200	-	-	700	500
特殊便器	700	-	-	700	-
特殊マット	500	-	-	200	200
特殊寝台	500	-	-	500	-
電動タイプライター	-	-	-	-	-
ワードプロセッサ	1,000	-	700	200	-
電動歯ブラシ	1,400	-	-	1,200	200
特殊尿器	-	-	-	-	-
入浴担架	200	-	-	200	-
体位変換器	-	-	-	-	-
重度障害者用意志伝達装置	200	-	-	-	200
携帯用会話補助装置	-	-	-	-	-
入浴補助用具	1,200	-	-	1,200	-
移動用リフト	200	-	-	200	-
歩行支援用具	2,400	-	-	2,400	-
透析液加温器	-	-	-	-	-
酸素ボンベ運搬車	200	-	-	-	200
ネブライザー	3,100	-	-	2,700	500
火災警報器	-	-	-	-	-
自動消化器	-	-	-	-	-
緊急通報装置	-	-	-	-	-
電気式たん吸引器	2,400	200	-	1,700	500
福祉電話	200	-	200	-	-
ファックス	3,100	-	1,900	1,000	200
視覚障害者用ワードプロセッサ	-	-	-	-	-

8 必要な福祉サービスについての要望の状況

必要な福祉サービスの要望状況をみると、「手当などの経済的援助の充実」が29,400人で35.9%と最も多く、次いで「障害児が暮らしやすい住宅の整備」が28,000人で34.2%、「医療費の負担軽減」が24,300人で29.7%、「地域の人々との交流の機会の拡大や障害者への理解を深めるための教育」が20,200人で24.7%となっている。

表Ⅲ-24 障害の種類別にみた必要な福祉サービスの要望の状況（複数回答）

(単位：人)

必要な福祉サービスの種類	総数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	81,900 (100.0)	4,800 (100.0)	15,200 (100.0)	47,700 (100.0)	14,200 (100.0)
障害児が暮らしやすい住宅の整備	28,000 (34.2)	1,400 (29.2)	1,400 (9.2)	21,200 (44.4)	3,900 (27.5)
授産施設等の福祉的配慮のされた働く場ないし活動の場の確保	17,800 (21.7)	1,400 (29.2)	1,400 (9.2)	12,100 (25.4)	2,900 (20.4)
言語機能や機能訓練等の専門的な早期訓練の実施	16,900 (20.6)	700 (14.6)	6,300 (41.4)	8,900 (18.7)	1,000 (7.0)
ホームヘルパー、ショートステイ等在宅福祉サービスの充実	14,200 (17.3)	200 (4.2)	200 (1.3)	13,500 (28.3)	200 (1.4)
入所施設の整備	16,100 (19.7)	200 (4.2)	-	14,900 (31.2)	1,000 (7.0)
通所施設の整備	12,500 (15.3)	700 (14.6)	1,700 (11.2)	8,700 (18.2)	1,400 (9.9)
身近な所で相談、指導を行う事業の充実	18,800 (23.0)	1,000 (20.8)	4,300 (28.3)	8,700 (18.2)	4,800 (33.8)
手当などの経済的援助の充実	29,400 (35.9)	1,400 (29.2)	5,100 (33.6)	17,800 (37.3)	5,100 (35.9)
医療費の負担軽減	24,300 (29.7)	1,000 (20.8)	5,300 (34.9)	12,300 (25.8)	5,800 (40.8)
仕事に就くことを容易にするための制度の充実	19,000 (23.2)	2,200 (45.8)	4,300 (28.3)	9,900 (20.8)	2,700 (19.0)
道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実	19,000 (23.2)	1,700 (35.4)	1,200 (7.9)	13,700 (28.7)	2,400 (16.9)
点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送などの情報提供の充実	5,300 (6.5)	700 (14.6)	4,600 (30.3)	-	-
スポーツ、レクリエーション、文化活動等に対する援助	4,800 (5.9)	700 (14.6)	200 (1.3)	3,400 (7.1)	500 (3.5)
パソコン教室の充実	14,700 (17.9)	2,400 (50.0)	3,100 (20.4)	7,700 (16.1)	1,400 (9.9)
災害時・緊急時の情報提供・通信体制・避難誘導対策の充実	7,000 (8.5)	700 (14.6)	2,700 (17.8)	2,900 (6.1)	700 (4.9)
地域の人々との交流の機会の拡大や障害者への理解を深めるための教育	20,200 (24.7)	1,900 (39.6)	3,900 (25.7)	12,800 (26.8)	1,700 (12.0)
就労・就学の場でのコミュニケーション支援	18,600 (22.7)	1,000 (20.8)	5,800 (38.2)	8,200 (17.2)	3,600 (25.4)
その他	2,400 (2.9)	500 (10.4)	200 (1.3)	1,000 (2.1)	700 (4.9)
回答なし	11,300 (13.8)	200 (4.2)	1,900 (12.5)	5,800 (12.2)	3,400 (23.9)

() 内は構成比 (%)